# ねりまの文化財

練馬区教育委員会
社会教育課
（文化財係）
☎ 3993－1111内線7141
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

## 指定登録 文化財98件に！

区では、昭和六十一年の文化財保護条例施行以来、かけがえのない文化遺産を守り、後世に引き継いでいくために、毎年文化財の指定・登録を行っています。平成六年度は次の十一件を新たに指定・登録しました。平成五年度までのものと合わせて、合計九十八件になりました。

なお、内容については、平成五年度指定・登録分と合わせて近刊予定「ねりまの文化財特集号」でご紹介します。

**今回指定された文化財**

《有形文化財》

◇豊島氏奉納の石燈籠　石神井台一－一八－二四　氷川神社内

《有形民俗文化財》

◇氷川神社富士塚　北町八－二二－一　氷川神社内

《無形民俗文化財》

◇鶴の舞　保持団体／氷川神社宮宿鶴の舞保存会　伝承地／氷川神社　氷川台四－四七－三

**今回登録された文化財**

《有形文化財》

◇相原正太郎家住宅　春日町五－二四－一八　相原正太郎氏所有

石製絵馬

## 新刊頒布中

新たに刊行した文化財に関する左記資料を六月十一日より頒布します。頒布窓口は、郷土資料室・区民情報ひろばです。また、図書館でもご覧になれます。

◎中島遺跡調査報告書（二二〇〇円）
◎練馬の民具目録－二、生産・生業－（一三〇〇円）

◇石製絵馬　南田中五－一四－一二　稲荷神社所有

◇井口敏家文書　関町北二－一－二　井口敏氏所有

◇武蔵関遺跡出土の大型槍先形石器　石神井台一－一六－三一　練馬区郷土資料室

《無形文化財》

◇ホウキ製造技術　保持者／鹿島佐平氏　高松一－三七－一七・篠田歳治氏　高松一－三七－一四

《有形民俗文化財》

◇丸彫青面金剛庚申塔　下石神井五－七－一一地先　庚申講所有

《天然記念物》

◇練馬東小学校のフジ　春日町一－三〇　練馬東小学校校庭

# 聖観音と下練馬宿

文化財保護推進員　徳川達子

練馬区北町には、旧川越街道の一部が今も残っています。多くの商店が両側に立ち並び賑わっていますが、川越の方に向うその道が二又に分かれる三角状の所に石観音堂があります。お堂の中には丸彫りの観音座像が安置されています。飾り気のない素朴な観音様ですが、お顔はやさしく、いかにも現世に安らぎを与えて下さるような感じです。

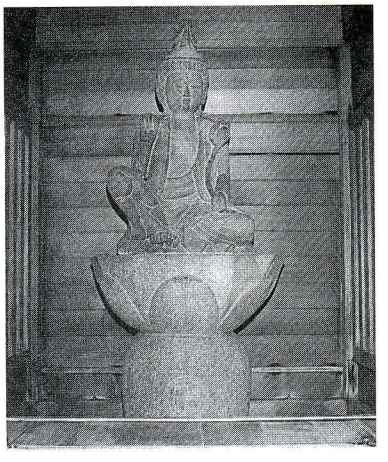
私が初めてこの観音様に出会ったとき、ふと鎌倉・東慶寺の水月堂で円窓の仏壇に安置されている水月観音のことを思い出しました。水辺に座して水面に映る月を眺めている姿を表わしているところから、その名で呼ばれているそうですが、柔和でいろいろな祈りを包み込んでしまうように感じたものです。

北町の聖観音は、あの犬公方で有名な五代将軍徳川綱吉の時代、天和二年（一六八二）に「四恩報謝」のために造られたことが背面に刻まれていることから分かります。台座には、「大和田・野火留・膝折・河越・新倉・白子・北町・赤塚村・下練馬・上板橋……」と、川越街道沿いや城下町の町村名が数多く刻まれてあり、広範囲にわたる人々の感謝の気持ちがそこに集結していることが分かります。

川越街道は江戸と川越の間、およそ一三里（約五〇キロメートル）を整備したことに始まり、参勤交代をする大名は川越の城主だけですが、江戸の守りも果す重要な街道でした。下練馬は宿駅として本陣・脇本陣・問屋場・旅籠・茶店などもあり、賑わっていたものと思われます。大木正治郎さんの調査によると下練馬宿には七七軒の家が確認され、鷹狩りに必要な生き餌を扱っていたと思われる、けらや・木挽（こびき）・棒や（鍬や鎌の柄に使う棒を売る）など二十数種類の店が立ち並んでいたとのことです（『古老聞書』区教委編より）。

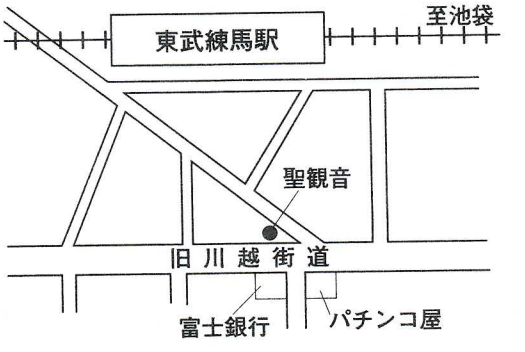
一方、川越城主・松平伊豆守信綱の家臣安松金右衛門が設計・工事をした野火止用水は明暦元年（一六五五）に完成し、新田開発が進み、街道沿いの農村は発展していきました。

野火止用水完成から約三〇年後、開発の成果が実った人々の喜びや感謝、宿場になっていた上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井ではそれなりの商売繁昌への感謝を、仏像を造ることで表わしたかったのではないでしょうか。「四恩報謝」の文字からいろいろ思いめぐらしてみました。



武州河越多賀町隔夜浅草光岳宗智月参所
奉新造正観音為四恩奉謝也
旹天和二壬戌歳八月吉辰日　願主敬白

**聖観音座像背面**




**聖観音座像位置図**

新田
宝蓙坂
常連坊
砂本村
上砂本
藤間
亀久保
大井
藤久保
中野
大和田
野火留
膝折
河越江戸町
本宿　新倉
高沢　白子
北町　赤塚村
下町
南町
鍛冶町
鴫町　下練馬
多賀町　上板橋
松江　足軽町

**聖観音座像台座**

三百年以上経った今、新しくなったお堂の中の観音様に花を供え、手を合わせていく姿を幾度となく見て、時代を超えたものを感じます。この聖観音座像は練馬区の登録文化財となっています。

## 小竹町二丁目遺跡の発掘成果から

小竹町二丁目遺跡調査会
主任調査員　大野邦彦

昨年十一月から、本年二月までの四ヶ月間にわたり現地発掘調査を行った、現在整理調査中の小竹町二丁目遺跡（小竹町二―二八）について中間報告をします。

当遺跡から三〇〇メートル以内に小竹東遺跡・小竹遺跡という二つの遺跡があり、小竹東遺跡では縄文時代早期、小竹遺跡では縄文時代早期・中期および近世（江戸時代）・近代の遺構や数々の出土品が発見されています。

これらの遺跡と同じ台地上に存在している当遺跡から出土した遺物は、旧石器時代（一万年以上前）の石器一点をはじめ、縄文時代・中世・近世・近代とやはり多様な時代に及んでいます。

縄文時代の土器は中ごろ（四〇〇〇―四五〇〇年前）に属するもので、他に石鏃（せきぞく）・スタンプ形石器・打製石斧（せきふ）・磨石（すりいし）・敲石（たたきいし）・石皿（いしざら）など石器類も数は多くありませんが、出土しています。

集落を構成する一部分としてとらえられる人為的な穴（貯蔵穴などの土坑・柱穴）や、三〇〇〇点あまりにのぼる多くの土器片が出土しましたが、当遺跡では残念ながら住居跡は検出されませんでした。

中・近世以降の遺跡も多種にわたり瓦（写真１）・碗・皿・甕・徳利・水注・灯明受皿・火入れ（写真２）・泥面子（どろめんこ）・ミニチュアの生

**写真1**

**写真2**

活用品などの陶器・磁器・土器片の他、寛永通宝（銅銭）や釘などの鉄製品もみられ、特に一九世紀中葉における笠間系の大徳利（写真３）が一点、ほぼ完全に近い形で出土しています。

他の遺構としては、溝一ヵ所と直径二メートル前後の円形の遺構三基、穴の中をたたき固めた円形遺構が二基みつかり、遺構中には、江戸時代から昭和にかけての遺物の出土がありました。しかし、これらの遺構の時代の特定には至っていません。

当遺跡は、小竹遺跡に非常に近接した位置に在り、出土品の観点からもその共通性が見いだされます。今後、小竹町二丁目遺跡で発見された遺構と出土した遺物は、整理調査が進み、この地域における当時の人々の日常生活の様相を知るという歴史的研究の良い資料となるでしょう。

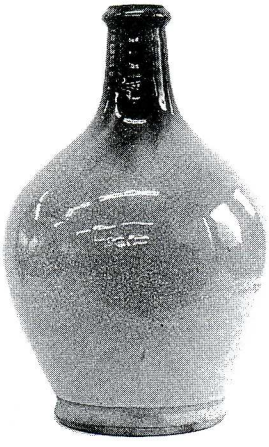


写真３

## 郷土資料室収蔵品シリーズ第19回

### 刺身のつま作り具

大根は、煮ても焼いても、そして生でも食べられる重宝な野菜です。練馬大根は沢庵漬で広く世間に知れわたりましたが、実は、刺身のつま用に、太くて先の短い大根も栽培していました。

ここに紹介するのは、大根を刺身のつまにするときの道具です。

写真左は、かつらむき器です。真ん中の心棒（針）に大根を刺し、ハンドルを回します。すると、側板にとりつけられた銑（せん）で大根が削（そ）がれ、かつらむきができます。銑の刃渡りは16～17㎝ほど、側板は大根の太さにあわせて前後に動かし調節できるようになっています。

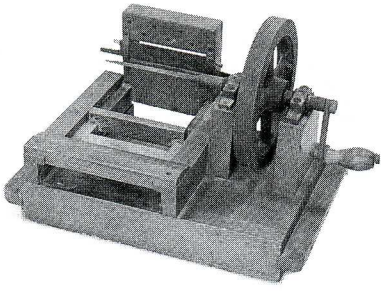
次に、かつらむきにした大根を、ゲートルを巻くようにぐるぐる巻きにし、四斗樽の上に渡したかんなでけずっていきます。そうすると、糸のように細く切れたつまができあがり、樽にたまっていきます。

刺身にそえる小さなわさび入れ皿も大根で作ります。その抜き型が写真右です。

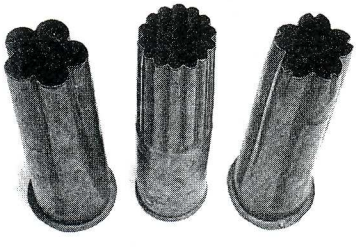
大根を輪切りにします。長さ12～13㎝ぐらいの輪切りです。それにこの抜き型を突きさして、型通りにくりぬきます。それを包丁で薄く切ると、わさび皿のできあがりです。

わさび皿は、季節によって梅、桜、菊などの花形にしました。十枚一組にして竹の皮で包み、一組一銭で市場に卸したとのことです。戦前までは台東区の三ノ輪につま屋が数軒あって、練馬からも月に一～二度、牛車で大根を運んでいました。

このつま作りの道具は、以前台東区でつま屋を営んでいた方が寄贈されたものです。



かつらむき器



抜き型